

釧路市立博物館所蔵 1920年代植物標本群の実態解明

加藤ゆき恵*

Study of the old plant specimens archived in herbarium of Kushiro City Museum

Yukie KATO*

背景

釧路市立博物館植物収蔵庫には、1923～28年に採集されたと考えられる植物標本群が未整理のまま保管されている(写真1)。これらの標本は30年ほど前に寄贈されたものであるが、採集者は不明である(前任者からの情報)。200点を超える標本の大半は採集年月日、採集地が標本紙等にかかれており、標本の状態も比較的良好である(写真2)。標本の採集地は、春採、別保、鳥取、阿寒など釧路地方の地名がかかれているほか(写真3)、円山、北大植物園など札幌で採集されたものも含まれる。

釧路市立博物館の前身である釧路市立郷土博物館が開館したのは1936年で、これらの標本の採集年はそれよりも前である。これらの標本の採集者は不明であるが、分類群や採集地で整理されており、また英語の日付がかかれ、学名が記された標本もあることから、ある程度学識のある人によって、何らかの学術調査の際に採集されたものであることが推察される。

そこで、これらの標本群の標本情報を整理して実態を解明すると共に、道内外の植物標本庫(主に北海道大学)において同日・同場所で採集された標本の有無を調査し、大学等の調査の一環(あるいは補助)として採集されたものであるか否かを検討した。

調査内容

標本群の全容を解明するため、植物標本をリストにし、未同定を含む全ての標本を同定した。標本をはさんでいる新聞紙(標本紙)の特徴についても把握した。

このリストを基に、戦前の北海道内産植物標本が多く収められている北海道大学総合博物館陸上植物標本庫(SAPS)で調査を行なった。標本調査は、リスト掲載種のほか、釧路地方でよく見られる植物種

についても行なった。



写真1. 釧路市立博物館に収蔵されていた未整理植物標本の束

結果と考察

標本群の特徴

標本の採集場所、採集日、植物名、重複標本数を表1に示す。

これらの標本には、(1) 標本採集地・採集日が偏っている、(2) 阿寒～雄別ではスゲやシダを集中的に採集し、同じ植物を重複して何枚も採集している。また、採集する分類群にやや偏りが見られ、採集者が植物に詳しいことが推察される、(3) 鳥取泥炭地、鳥取川など現在は自然環境が失われた場所で採られたものがある、といった特徴があった。

標本の状態は良く、ほとんどの標本が種まで同定できた。中にはイヌイトモ(CR)、イトナルコスゲ、(VU)、チシマミズハコベ(VU)といったレッドリスト記載種もあったが、その採集地とされる「鳥取川」「鳥取泥炭地」は当時と環境が激変しており、現在生育地は失われていると考えられる。また、1926年8月に採集された標本群に、阿寒湖畔で採集されたチャガヤツリとヌマガヤツリがあることが同定の結果分かったが、これら2種は1988～91年に阿寒湖畔の前田一歩園所有山林で行われた植物相調査(財団法人前田一歩園財団1992)で阿寒国立公園

* 釧路市立博物館 Kushiro City Museum



写真2. ツリフネソウの標本 1925年8月27日 別保.



写真3. 標本紙などに書かれた採集情報.
 A 一九二五・七・二二 クシロハルトリ
 B 1925 8.21 コトニ
 C 19250817 オタノシケ
 D Aug.29. 1926 クッチャロ
 E B.G. Aug 22, 25
 F Aug 14 1926 阿寒湖滝口
 G Aug 15 1926 Mt.Oakan
 H 1927 6.19 鳥取泥炭地

における初確認とされた種であった。つまり、1990年前後の調査よりも60年以上前に、既にこれらの種が採集されていたことが分かった。

植物標本をはさんだ新聞紙（標本紙）は大半が萬朝報という全国紙で（写真4）、北海タイムス、釧路新聞（現在の北海道新聞の前身）、小樽新聞といった地元紙（写真5）は30点ほどであった。以前、著者が北海道大学総合博物館の植物標本整理に携わった際、北海道や千島、樺太（サハリン）で採集された未整理標本は地元紙には含まれていることが多く、標本の大半が全国紙には含まれているということに違和感を覚えた。道外の新聞はほかに、東京朝日新聞、大阪毎日新聞、報知新聞、日本があった。

この標本群は、採集日・採集場所が同じものが多いことから、採集者が釧路地方に住んでいて春から

秋にかけての植物の季節にまんべんなく採集しているのではなく、他所から旅行などで来釧路した際にまとめて植物を採集したという印象を受ける。標本をはさんでいる新聞紙も、釧路新聞、北海タイムスなどの地方紙は少なく、萬朝報という全国紙がほとんどであることから、採集者が釧路以外あるいは北海道以外在住であることが推察される。

北海道大学総合博物館標本庫調査の結果

リスト掲載種及び釧路地方でよく見られる植物種の釧路地方産標本を調べた結果、調査対象の標本群と同日・同場所で採集された標本は存在しなかった。1920年代に釧路地方で採集された標本は、多くが北海道帝国大学の宮部金吾、舘脇操、秋山茂雄、伊藤誠哉によって採集されていたが、一部



写真4. 標本紙に使われていた萬朝報
大正14年(1925年)12月10日 萬朝報夕刊

Hiratsuka、照井陸奥夫によって採集されたものもあつた。釧路市立博物館の1920年代標本と同じ日に近い場所で採られた標本もあつたが、関連はないものと考えられた。

SAPSに収蔵されている1880年代～1920年代にかけて釧路地方で採られた標本は、以下の3名の北海道大学(札幌農学校・北海道帝国大学)関係者ものがあつた。

宮部金吾(1880年代、1910年代:道東～千島の植物調査)

川上瀧彌(1897年:釧路～阿寒湖周辺の植物調査)

館脇操(1920年代道東の植物調査)

なお、宮部金吾による1880年代の調査は、植物園開園に向けた調査であり(高橋・加藤2007)、1897年の川上瀧彌による調査は雌阿寒岳の気象観測補助の際に行われたもので(北海道殖民部農商課1898、川上1897、1898)、この調査の際に阿寒湖でマリモを発見している。

その他に上記以外の採集者として下記5名の名前があつた。

小花和太郎(1885年雪裡)

伊東祐史[祐夫?](1885～95年:雪裡)

中村守一(1886～89年:厚岸～尺別)

橋本広五郎[広丑郎?](1889～90年:アトサヌブリ、厚岸)

西川冠次郎(1913～14年:釧路)

なお、自然史標本情報検索(S-Net)でも、当館所蔵の標本群の重複標本は見つからなかった(<http://science-net.kahaku.go.jp>、2017年1月12日参照)。

今後の展開

釧路市立博物館にある1920年代採集標本群の採集者の特定は難しいことが推測されるが、これらの標本群は100年近く前の釧路の植物相・植生を知る手がかりとなることから、新聞紙とあわせて整理を進め、資料報告や博物館での展示などで活用していく予定である。

謝辞

標本庫調査にあたり、北海道大学総合博物館高橋英樹教授にお世話になりました。水草類の同定に際して札幌市博物館活動センター山崎真実学芸員にご助言いただきました。北大植物園における標本採集記録に関して、北海道大学植物園加藤克助教にご協力いただきました。御礼申し上げます。本研究の一部は平成26年度北海道博物館協会学芸職員部会調査研究助成を受けて行いました。

引用文献

北海道殖民部農商課. 1898. 『雌阿寒山気象観測記』. 北海道殖民部, 札幌.

川上瀧彌. 1897. 釧路國阿寒地方採集記. 植物学雑誌, 11: 431-434.

川上瀧彌. 1898. 釧路國阿寒地方採集記. 植物学雑誌, 12: 51-53, 82-84, 115-122, 220-225, 258-269.

高橋英樹・加藤ゆき恵. 2007. 北大研究者による千島列島植物学研究の系譜. 北大千島研究の系譜-千島列島の過去・現在・未来-(高橋英樹・加藤ゆき恵・松田由香編), p37-53. 北海道大学総合博物館, 札幌.

財団法人前田一步園財団(編). 1992. 前田一步園財団森林環境調査 前田一步園財団所有山林高等植物相. 87pp (6pls.). 財団法人前田一步園財団, 阿寒.



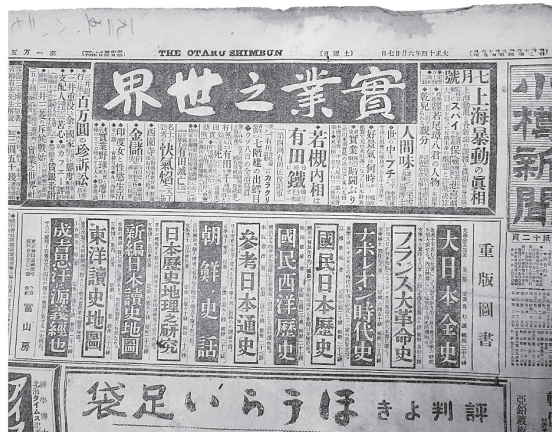
a



b

写真5. 標本紙に使われていた道内の地方紙

- A 大正 14 年 (1925 年) 12 月 22 日 釧路新聞
- B 大正 14 年 (1925 年) 12 月 17 日 北海タイムス
- C 大正 14 年 (1925 年) 6 月 27 日 小樽新聞



c

表1. 標本リスト(科名はAPG IVに従った。《 》内は重複標本数、〔 〕内は補足)

1917.6.18?	鳥取泥炭地	コツマトリソウ (サクラソウ科)
1924.9.1	原産地根室	ゲンノショウコ (フウロソウ科)
1925.6.15	〔産地情報なし〕	エンコウソウ 《2》 (キンボウゲ科)
1925.7.22	釧路 春採	ヒオウギアヤメ 《2》 (アヤメ科)、エゾノシシウド・マルバトウキ (セリ科)
1925.8.1	原産地 室蘭 Cult.* ¹	ゲンノショウコ (フウロソウ科)
1925.8.9	ハルトリ* ² 〔釧路春採〕	イワアカバナ? (アカバナ科)、オミナエシ (スイカズラ科)
1925.8.11	厚岸湖畔	イチゲフウロ (フウロソウ科)
1925.8.11	カキジマ〔厚岸湖 牡蠣島〕	エゾオグルマ (キク科)
1925.8.20-23	北大植物園 (B.G.)〔北海道帝国大学植物園〕	ハウチワカエデ・ヒメトチノキ (ムクロジ科)、ユリノキ (モクレン科)、 <i>Statice laifolium</i> * ³
1925.8.21	コトニ〔札幌琴似〕	エゾノヨロイグサ (セリ科)
1925.8.22-23	円山〔札幌〕	イチイ 《2》 (イチイ科)、ササsp. (イネ科)、ウリノキ 《2》・ミズキ 《3》 (ミズキ科)、イヌトウバナ・ヒメジソ? 《3》 (シソ科)、ヤブハギ (マメ科)、ミズヒキ (タデ科)、エゾタチカタバミ (カタバミ科)、ヒヨドリジョウゴ* ⁴ (ナス科)
1925.8.27	上別保	エゾタチカタバミ 《2》 (カタバミ科)
1925.8.27	別保	アブラガヤ 《2》 (カヤツリグサ科)、ケイヌビエ 《2》 (イネ科)、チドリケマン (ケシ科)、フタバハギ 《2》 (マメ科)、クサコアカソ 《3》 (イラクサ科)、エゾタチカタバミ 《5》 (カタバミ科)、ミツバフウロ 《2》 (フウロソウ科)、オオヨモギ 《2》 (キク科)、ウシタキソウ* ⁴ (アカバナ科)、ツリフネソウ 《2》 (ツリフネソウ科)
1925.8.27	別保口	タマミクリ 《3》 (ガマ科)、ホソバイラクサ 《2》 (イラクサ科)、ヤナギトラノオ 《2》 (サクラソウ科)、オトコエシ 《2》 (スイカズラ科)、セリ 《2》 (セリ科)
1925.9.1	Cult.* ¹	トンボソウ? (ラン科)、シソ科園芸 《2》
1925.9.1	原産根室 植栽品	ゲンノショウコ (フウロソウ科)
1925.10.10 * ²	鳥取・鳥取川	ホソバヒルムシロ? * ⁵ ・イヌイトモ (ヒルムシロ科)
1925.10.12 * ²	鳥取川	イヌイトモ 《2》 (ヒルムシロ科)
1925.10.13 * ²	鳥取・鳥取川	ミクリ 《4》 (ガマ科)、タヌキモ (タヌキモ科)、オヒルムシロ 《3》・イヌイトモ 《2》・イトモ 《3》 (ヒルムシロ科)、イネ科sp.
1925.10.17	オタノシケ	ネムロコウホネ? 《2》 (スイレン科)、エゾヤナギモ 《4》・オヒルムシロ? 《2》 (ヒルムシロ科)
1925.10.18 * ²	鳥取川	チシマミズハコベ (オオバコ科)
1926.8.14	阿寒湖滝口	マンネンシギ、(ヒカゲノカズラ科)、ミヤマワラビ (ヒメシダ科)、シノブカグマ・ホソイノデ 《2》 (オシダ科)、フクロシダ (イワデンダ科)、イトヒキスゲ、オオカワズスゲ (カヤツリグサ科)
1926.8.14	阿寒湖畔・ボッケ	ゼンマイ 《2》 (ゼンマイ科)、チャガヤツリ・ヌマガヤツリ 《2》 (カヤツリグサ科)
1926.8.15	阿寒山麓・雄阿寒へ行く途中・阿寒川手前	ヘビノネゴザ、オクヤマシダ (オシダ科)
1926.8.15	雄阿寒	クジャクシダ (イノモトソウ科)、エゾメシダ・ミヤマシケシダ・イワイヌワラビ? (メシダ科)、タガネソウ・サハリンイトスゲ・カミカワズゲ? (カヤツリグサ科)
1926.8.16.	雌阿寒	ヘビノネゴザ 《3》 (メシダ科)、セキショウイ? (イグサ科)、ヒメスゲ 《2》 (カヤツリグサ科)
1926.8.17	飽別	ハリコウガイゼキショウ (イグサ科)、カサスゲ 《3》・ヒメスゲ (カヤツリグサ科)
1926.8.17	雄別・雄別峠	ミゾシダ? 《2》 (ヒメシダ科)、ホソイノデ 《3》・ジュウモンジシダ・ニオイシダ? 《3》 (オシダ科)、ウサギシダ (ナヨシダ科)
1926.8.29	屈斜路湖* ⁶	ジョウロウスゲ 《3》 (カヤツリグサ科)
1927.6.15	鳥取	ハイキンボウゲ 《3》・シコタンキンボウゲ 《2》 (キンボウゲ科)
1927.6.15	採集地情報なし、鳥取?	エンコウソウ 《3》 (キンボウゲ科)、クロミノウグイスカグラ 《10》 (スイカズラ科)
1927.6.18	鳥取	ツボスミレ (スミレ科)
1927.6.19	鳥取泥炭地	コウボウ 《2》 (イネ科)、イトナルコスゲ・ワタスゲ 《2》 (カヤツリグサ科)、フタマタイチゲ 《2》・シコタンキンボウゲ 《2》 (キンボウゲ科)、オオバタネツケバナ (アブラナ科)、コツマトリソウ (サクラソウ科)、ミツガシワ 《2》 (ミツガシワ科)、ツボスミレ 《7》・スミレ (スミレ科)
1927.6.24	雄別炭山	エゾノレイジンソウ
1927.8.3	Cult.* ¹	ナデシコ (園芸)
日付なし	別保	チドリケマン (ケシ科)
日付なし	産地情報なし	ヒメホタルイ (カヤツリグサ科)、ミヤマタニタデ (アカバナ科)

*¹ 栽培 (Cultivate) の意味でCult.と書かれている/*² 地名・日付に疑問が残る*³ 標本紙に学名が書かれていた/*⁴ 標本紙に和名が書かれていた*⁵ 標本紙には「エビモ*P. crispus* L.」と書かれていた*⁶ 標本紙には「クッチャロ」と書かれていたが、道北のクッチャロ湖ではなく道東の屈斜路湖と思われる